

26年度 氷見市教育総合センターだより 第5報

「『ひみっ子の夢と希望』きらめき推進事業」 11月12日(水)

演題 「夢を刻む—映画監督の仕事—」

講師 映画監督 本木 克英 氏

今年度の中学2年生を対象とした「『ひみっ子の夢と希望』きらめき推進事業」は、映画監督の本木克英氏を招いて行われました。講師の本木氏は、日本中で人気のあった「釣りバカ日誌」シリーズを3本監督されました。3本目の「釣りバカ日誌13ハマちゃん危機一髪」は富山県を舞台に撮られ、富山県の知名度が一躍アップしました。その後、「ドラッグストア・ガール」「ゲゲゲの鬼太郎」などを手懸けられ、最近では「超高速！参勤交代」を撮っておられます。また、県内外の小・中学校や高等学校、企業の研修会などでも講師として活躍しておられます。



本木氏は、「大学4年時、海外の企業に内定していたが、これでいいのかと迷っている折、偶然目にした助監督募集のチラシを見て受けたところ採用された」と監督になった経緯を説明し、同日、発売になったDVD「超高速！参勤交代」やメイキング映像を流しながら、監督の仕事や監督に求められる資質などについて話されました。「人生はちょっとした機会と出会いで決まる」「監督としての評価は次回作を取れるかどうかで決まる」「人と出会い、運があって監督を続けている」「運は準備をした人だけが得られる。今は何かの準備をしていると思って一生懸命やろう」など、生徒に熱く語られました。会場の生徒たちに対して、「苦労の無い映画作りは無い。映画を見て喜んでくれる人がいると思って映画作りをしている」「夢を叶えるためには、イメージをもち、計画を立て、何らかの準備をすることが大切だ」とのメッセージをいただき、参加した生徒たちは、未来に向かって自分を高めるために頑張っていこうという気持ちになったようでした。

..... 将来の夢を考える機会になった本木克英氏の講演

講演を聴いての生徒の感想 (一部抜粋)

- 僕は今、将来の夢をもっていません。だから、正直夢がない自分が不安でした。しかし、本木先生も中学生の時には具体的な夢はなかったと聞いてほっとしました。本木先生は、「人生は、選択と出会いで決まる」と言っておられました。(中略) 夢が見つかって今をがんばっていなければ夢は実現しない。だから僕は、今を一生懸命がんばります。(南部中)
- 本木監督の講演を聴いて学んだことが三つあります。一つ目は、「自分がしていて楽しいことをやる」ということです。自分が楽しむ大切さを学びました。二つ目は、「いつ、どこで自分が見られているか分からない」ということです。いつも両親が自分の食事の仕方に厳しいのはそのためかなと思いました。三つ目は、「どれだけ気を遣うか」ということです。自分の身を粉にして相手に気を遣うことはなかなかできません。そのできないことをすることの大切さを学びました。

(南部中)

講演を聴いての生徒の感想（一部抜粋）

- 本木さんは、もともと将来に対する具体的な夢をもっていなかったとおっしゃっていたので、自分に合った職業を見つけるチャンスはどこにでもあるのだなと感じました。でも、そのためには勉強など何か努力していることがなければだめだと思いました。（北部中）
- ぼくは、3歳の時はじめて夢をもちました。それは野球をすることでした。小学生になりその夢がかなって、プロ野球選手になりたいという新しい将来の夢ができました。しかし、今は、本当になれるのかという不安があり、とても心配です。今日の講演を聞いて本気でその夢に向かってチャレンジしてみようと思いました。何でも試してみないと分からないという本木先生の言葉がとても心に残りました。（北部中）
- 普段観ている映画の裏には、たくさんの人の努力があることを知り、私も目標をもって何にでも挑戦していこうと思いました。自分の将来の夢を叶えるためには、精一杯努力すること、たくさんの経験を積むことが大切だと、今日の講演で学びました。（西部中）
- 「運は準備した者にしか訪れない」という言葉が心に残りました。準備もしていないのに運なんて望めないし、逆に運がいいと言われる人は、ちゃんとしっかり準備した人なのだと分かりました。（中略）いろいろ経験した人は将来いろいろなところで役に立つと強く感じました。辛く苦しいとき、やめたいと思うときが学校生活の中でたくさんありますが、本木監督のようにあきらめず努力していきたいと思いました。（西部中）
- 今日の講演を聴いて、何事も楽しむことが大切だと思いました。一生懸命にやっても、自分が楽しまない人の心は動かないのだと感じました。自分が楽しめて初めて人を楽しませることができるのだと思います。また、何にでもチャレンジしてみることが大切だと思いました。（中略）いい出会いをするためにはいろいろなことにチャレンジし、たくさんの人とふれあうことが必要だと思っています。だからいろいろなことに自分から積極的にチャレンジしていきたいと思いました。（十三中）
- 私は将来何をしたいのかまだ決まっていません。本木監督が「今のうちにたくさんのことに挑戦することが大事です」と言われていたことがとても心に残りました。将来について考えるよいきっかけになったと思います。（十三中）
- 「辛かったときに支えてくれたものは何ですか」という私の問いに「これから観てくれるお客さんの笑顔や感動している姿を想像している」と言われて、やはり仕事は誰かが喜んでくれていると思うとがんばれるのだと思いました。周りの人との繋がりを大切に、苦勞も楽しみながら生きていく中で夢は叶うのかなと思いました。（灘浦中）
- 今日の講演を聴いて、私は人との出会いを大切にしようと思いました。私はまだ将来に向けての明確な夢をもっていませんが、人との出会いを大切に夢を育てていきたいなと思いました。（灘浦中）
- 私には夢があります。でも、今、何をすればよいのか分かりません。しかし、今日の講演を聴いて小さなことから始めてみようと思いました。（中略）来年受験があります。受験も将来に繋がる第一歩だと思っています。だから事前に準備して運を手に入れ、自分が楽しく勉強ができるよう、今のうちから準備していきたいです。（西條中）
- 本木さんは、監督に必要な力は「こんな形にしたいと相手に自分の意思をはっきり伝える力」だとおっしゃいました。自分の意思を伝えることは普段の生活でもがんばらないといけないことだと思いました。（西條中）

各学校の研究推進の中核を担っている教務主任・研究主任が参加し、学力向上研修会が開催されました。

「子供の実態を踏まえた各学校の取組」、「学力調査と質問紙のクロス集計から見える課題と対策」、「平成24年度に行われた理科の調査結果から見える課題と対策」、「福井・秋田両県視察から学んだこと」等について説明した後、小・中学校規模別の4班に別れてグループ討議をしました。研修会で紹介されたり話し合われたりしたことの一部を紹介します。

＜クロス集計から導き出された本市において大切にしたい質問紙項目＞

小学校の質問紙内容	中学校の質問紙内容
<ul style="list-style-type: none"> ・家で、学校の宿題をしているか ・友達との約束を守っているか ・朝食を毎日食べているか ・毎日、同じくらいの時刻に起きているか ・算数の授業の内容はよく分かるか 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校が休みの日に、家で勉強をしているか ・毎日、同じくらいの時刻に起きているか ・家で、学校の宿題をしているか ・友達との約束を守っているか ・自分の考えを発表する機会が与えられているか

＜福井県・秋田県視察から学んだこと＞

福井県	秋田県
<p>子供と向き合う教員の熱意と協働体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習 中学校 5教科から20分程度の宿題を出す ○生活ノート 丁寧なコメント ○きめ細かい生徒指導 無言清掃、家庭訪問、個人面談、部活動 ○組織の一員として動く、教師集団の一体感 教師が学校の方針と同じ方向を向いて、各自の役割を担いつつ、教師同士が協力し合う 	<p>確かな学力定着のための施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教育専門監 教科指導に卓越した力を有する教師を認定し、TT授業を実施 ○学習状況調査事業 12月に県独自の学習状況調査を実施 全国学力調査(4月)結果を5月に出し、変容を分析 ○学力向上支援事業 ・学力向上支援 Web による単元評価問題等の配信(各学校で県平均との比較可能) ・「あきた型算数・数学」の授業実践

＜グループ協議内容＞

区分	部会	力を入れている取組	課題	改善策
小学校	朝日丘・比美乃江・宮田・窪・湖南・上庄小部会	<ul style="list-style-type: none"> ○全校での授業改善 ○学習規律の確立 ○学級作りと課題のある児童への指導 	<ul style="list-style-type: none"> ○学級・学年間の学力差 ○学力の二極化傾向 ○低・中・高学年で定着すべきことが不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ○児童相互が互いに教え合う学習の重視 ○形式的でなく実効性のある少人数指導、TT指導
	十二町・明和・速川・久目・海峰・灘浦小部会	<ul style="list-style-type: none"> ○授業と家庭学習の連動(補充学習) ○書く力(ノート)・話す力、聴く力の重視 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時間がオーバーし、まとめが不十分 ○学年間に温度差 ○学習課題が不明確 	<ul style="list-style-type: none"> ○高学年での予習重視とそれを生かす学習過程 ○教員間での声の掛け合いによる共通理解の促進
中学校	南部・北部・西條中部会	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭学習の充実 ・セミナー・サブワーク ○朝学習・帯学習の実施 ・自作プリント 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノート等の点検に要する時間の確保 ○担任の負担 ○教員の意識の差 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生初期に自主学習態度をしっかりと指導 ○学年間で一貫したノート作り、自学ノート指導
	西部・十三・灘浦中部会	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本の徹底 ○家庭学習の充実 ○グループ学習の導入とねらいの明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲の向上 ○下位生徒への対応 ○出題形式に不慣れで定着が不十分 	<ul style="list-style-type: none"> ○指導法の見直しと個別指導の充実(帯学習の導入) ○授業の中で基礎・基本の定着を図る時間の設定


※ グループ協議で学級作りが話題になりました。下記は、学級作りの基本となる「子供から信頼される教師の言動」の一端です。振り返られる際の参考にしてください。

子供から信頼される教師の言動 等

- ・授業が分かりやすい。筋が通っている。叱るべき時に叱る。めりはりがある。公平。
- ・授業中は厳しいが、普段は児童生徒とのコミュニケーションがうまい。
- ・授業での教えや課題が的確で、自分の成長に気付かせてくれる。
- ・児童生徒の悩みに向き合ってくれ、一緒に考えてくれる。等


おすすめ図書の紹介

今年度、教育総合センターで購入した図書を紹介します。仕事後の休息時や休日に読んでみてはいかがでしょうか。




九歳、十歳の「壁」とか小学四年生の「つまずき」と言われる言葉の根拠や九歳、十歳の様々な心の領域の特徴を発達心理学観点から紹介されています。この年頃に起こる大きな変化を「飛躍の時」と受け止め、楽しんで見守るためのポイントが書かれています。

子どもの「十歳の壁」とは何か？
— 乗り越えるための発達心理学 — 渡辺弥生著 光文社発行



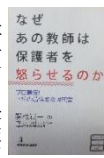
ある日突然、「普通の子」が、悪意なく人を殺そうとしたり、犯した罪の重さを実感できなかったりします。そのような子供たちにどうすればその行動を未然に防ぎ、回避することができるのでしょうか。実際起こった事件から考察されています。

ドキュメント発達障害と少年犯罪
草薙敦子著 イースト・プレス発行



今日急増しているネット依存の状況とその背景を、専門医による医学分野からの解説とネット依存アドバイザーによる多くの事例が紹介されています。ネット依存への対処と今後の対策も提言されています。

ネット依存から子どもを救え
遠藤美希・墨岡孝共著 光文社発行



学校と保護者間の問題をこじらせる原因は何か。学校保護者問題がこじれるのは「教師が悪い」そして「保護者が悪い」という筆者。事例による問題の背景から苦情対応への理想的な対応の秘訣等を学ぶことができます。

なぜあの教師は保護者を怒らせるのか
関根眞一著 教育開発研究所発行

お知らせ

平成26年度 教育論文・教育実践記録募集について

日頃の地道な教育実践に基づいた自主的な研修を奨励し、顕彰するとともに、教員相互の資質向上を願って、今年度も皆さんの教育論文・教育実践記録を募集します。奮って応募ください。

(募集要項)

- 1 規格
 - ・ A4判サイズ、本文12ページ以内
 - ・ 字数は40字×40行とし、写真、図、表などを本文に挿入する場合も枠内におさめる
 - ・ 提出は2部（閉じたもの、閉じてないもの各1部）、概要（A4判1枚）2部
- 2 応募締切 平成27年1月8日（木）17:00まで
- 3 提出先 教育総合センター

※ 詳細は、第4回 小・中学校長会議資料をご覧ください。

新次長着任

仙城前次長がご逝去され空席になっていたところ、平成26年11月17日付けで西川よし子（前西部教育事務所主任指導主事）が新たに次長として着任いたしました。

センター職員共々よろしく願っています。